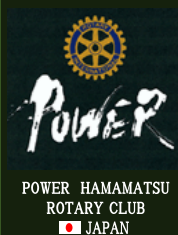


国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

共感の架け橋、慈愛の奉仕

RI 会長 杉川・ハム・パ・パ・パ / 第 2620 地区ガバナー 若林秀典 / 会長 華岡博之 / 幹事 松本由紀彦
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002 年 10 月 22 日 認証伝達式：2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ：浜松中 R C

持続可能な
インパクトを
生み出そう



Rotary

第1060回例会7月28日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会：武田信秀 池谷公孝
- 点鐘：華岡博之 ■週報：森一夫
- ロータリーソング：「希望のエネルギー」
- ゲスト：浜松市社会福祉協議会 浅山恵一様
浜松こども基金 代表 山田大記様

出席報告/スマイル報告

会員数 68 名 (内出席免除会員 1 名)
出席数 58 名 出席率 86.57%

スマイル提出者氏名掲載
財団プログラム 村木則予さん
鈴木小織さん 会長 幹事

会長挨拶 会長 華岡博之

皆さん、おはようございます。

会長として三回目のご挨拶をさせていただきます。

本日は、通算 1060 回目の例会です。1060 回という数字を見ると、このクラブが長い年月にわたり、多くの先輩方によって支えられ、今日まで受け継がれてきたことを改めて感じます。その歴史のページを、今年一年、皆様とともに歩ませていただけることを大変うれしく思っています。

さて、一昨日の 7 月 26 日には、米山記念奨学会のセミナーが Zoom で開催されました。ご参加いただいた会員の皆様、お疲れ様でした。今年度は、当クラブで米山記念奨学生を受け入れる予定はありません。しかし、受け入れがないから関係がない、ということではありません。ロータリーの活動は、自分のクラブだけで完結するものではなく、地区や日本全体、さらには世界へとつながっています。私は外交官として海外で勤務していた頃、日本へ留学した経験を持つ方々に数多くお会いしました。日本で学んだ経験を大切に、日本を第二のふるさとのように語ってくださる方も少なくありませんでした。人と人との出会いは、一時的なものではなく、その後の人生を大きく変えることがあります。米山記念奨学事業も、まさにそのような事業なのだと思います。

今年は直接奨学生を迎えることはありませんが、その理念を理解し、支えていくことも私たちロータリアンの大切な役割ではないでしょうか。今年度のテーマは「パワー浜松」です。私は、この「パワー」とは、自分たちだけの力ではなく、多くの人とのつながりを大切にする力でもありと考えています。クラブの中だけではなく、地区へ、世界へと目を向けることで、私たちの活動はさらに豊かなものになるはずです。

最後に、今日の「ひきだし」を一つ。「人は、出会った人の数ではなく、大切にしたい出会いの数だけ豊かになる。」今日の例会も、新しい出会いと学びのある時間になりますことを願っています。本日もどうぞよろしくお願いいたします。米山セミナーに参加していただいた曾布川さんそのほか委員の皆さんありがとうございます。



幹事報告 幹事 松本由紀彦

① 地区財団セミナーについて

8 月 1 日に地区の財団セミナーがございまして。出席予定者は堀内さん、河村さん、匂坂さん、石原さん、小林泰司さんです。よろしくお願いいたします。

② 青少年交換学生について

8 月 23 日に静岡で青少年交換学生の面接選考会と受入学生研修会がございまして。関係者へはあらかじめメールにて案内させていただきました。出欠を長谷川隆是委員長の方で取りまとめて頂いておりますので、ご連絡は委員長までお願い致します。

③ 役員理事会開催について

例会終了後にメイフェアの間に第 1 回役員理事会を開催致します。出席予定者の方は速やかにご移動願います。



委員会報告

■RL1 委員会 堀内善弘氏

RL1 のご紹介です。後日オールパワーでご案内があると思います。

■青少年育成委員会 長谷川隆是氏

8/24 15:30 交換学生の内山紗良さんがフランスへ向け出発します。
お時間にご都合のつく方は 8/24 15:30 浜松駅新幹線改札までお見送りに
お越し下さい。



議事 担当：財団プログラム委員会 「地域全体で支える 浜松こども基金」

■浅山恵一 様 山田大記 様 卓話

皆さん、こんにちは。山田大記と申します。私はここ浜松市の出身で、昨年まではプロサッカークラブのジュビロ磐田でプレーをしていました。現在は、ジュビロに関わりながらも、NPO 法人「Reversible (リバーシブル)」を通じて、子どもの貧困という地域課題に取り組んでいます。具体的には、富塚町にある物件を改装しまして、今年の 7 月からは私自身も現場に立ち、週に 2 回程度、子ども食堂を運営しています。私たちの活動は、ただ食事を提供するだけではありません。学習機会やさまざまな体験の格差といった課題にしっかりと向き合い、生活用品の提供や学習支援なども行う、いわば「多機能型」の支援を行っています。しかし、実際に現場に入ってみると、子ども食堂の運営は本当に厳しいという現実を突きつけられました。食事を提供するだけでも、資金や人手が圧倒的に不足しています。本来、根本的な課題解決を目指すのであれば、各学区で週に 1～2 回開催できるのが理想です。ですが、資金と人材の不足が壁となり、なかなか開催頻度を上げられない現状があります。さらに、一生懸命活動している支援団体には、広報や発信力が不足しがちで、地域に対して活動の思いや実情を十分に伝えきれていないという大きな課題も抱えています。こうした状況をなんとか打破したい。子どもたちを最前線で支えている支援団体をバックアップしたい。そう強く思い、今年「浜松こども基金」を立ち上げました。おかげさまで、先月には認定 NPO 法人として認可をいただくことができました。この基金では、大きく分けて「資金」「人」「広報」の 3 つの柱で支援策を展開していきます。まず 1 つ目の資金提供についてですが、今年中に第 1 期の助成金を各支援団体へ交付することがすでに決まっています。2 つ目の人的支援では、企業のボランティア休暇制度などを活用していただき、人的資本でサポートしていただける仕組みをご提案しています。そして 3 つ目が広報支援です。私たちが支援団体をバックアップし、多くの方に活動を知っていただくための橋渡し役を担っていきたいと考えています。これらの活動の基盤となる資金調達については、年間 10 万円の法人会員様や、個人会員の皆様からのご寄付を募っています。



また、もっと身近に参加できる仕組みとして、「寄付型商品（応援商品）」の開発も進めています。たとえば、売り上げの一部が寄付される「応援自販機」は、現在すでに 6～7 台設置していただいています。ほかにも、パン屋さんでのご購入や美容室でのヘアカットなどを通じて、日常生活のなかで自然と支援ができる仕組みを導入しています。さらに、来月末の夏休み期間に向けては、「浜松こども応援ウィーク」と銘打ったキャンペーンも調整中です。これは、期間中の売り上げの一部をご寄付いただくというものです。私が目指しているのは、「支援する側」と「される側」というような上下関係ではありません。相対的貧困という課題に対して、地域全体で自然と支え合えるような、そんな温かい社会をこの浜松に残していきたいと強く願っています。



【質疑応答】

（質問者からの「本当に支援が必要な子どもたちを見つけ出すことの難しさ」「『貧困の子供向け』と限定すると対象者が来づらくなる中で、どうアプローチしているのか」という問いに対して）

非常に重要な課題提起をありがとうございます。現在、7 人に 1 人の子どもが支援を必要としていると言われていますが、本当に支援が必要な層に情報を届けることは、私たちにとっても非常に難しい課題だと痛感しています。おっしゃる通り、「貧困家庭向け」と看板を掲げてしまうと子どもたちは来てくれません。だからといって、地域に開かれた食堂にすると、今度は支援を必要としない層が多く集まり、肝心の「本当に困っている層」が来づらくなってしまおうというジレンマがあるんです。

そのため私たちの現場では、まずは生活が苦しいご家庭のみを対象としたクローズドなサポートからスタートし、それを徐々に地域へオープンにしていくというプロセスを採っています。

今後は、社会福祉協議会さんなどデータを持つ機関からの情報提供や、他の支援団体との情報共有、そして何より地域での口コミを大切にしながら、支援を必要としている子どもたちへの確にアプローチしていきたいと考えています。